

2018年度 事業報告書

財団創設者 安藤百福の「食とスポーツは健康を支える両輪である」という理念のもと、子どもたちの健全な心身の育成と、食文化の発展に貢献する公益事業を実施しました。

その概要につきまして、以下のとおりご報告いたします。

<公益目的事業>

- (1) 公1. 陸上競技支援事業
- (2) 公2. 自然体験活動支援事業
- (3) 公3. 食文化振興事業
- (4) 公4. 発明記念館運営事業
- (5) 共通. 青少年の健全育成を目的とする支援事業

<収益事業等>

- (1) 収1. 施設賃貸および物販等の業務受託

<公益目的事業>

■公1. 陸上競技支援事業

「未来ある子どもたちにあらゆるスポーツの基本である正しい走法を学ばせたい」という日本陸上競技連盟の考えに賛同し、走る楽しさ、仲間とふれあう喜びを広めることを目的に、全国の小学生を対象とする陸上競技大会を支援しています。

1. 小学生陸上競技大会等の後援事業

(1) 「第34回全国小学生陸上競技交流大会」の事業後援

子どもたちにあらゆるスポーツの基本である正しい走法を学ばせること、スポーツを通じた友情を育んでもらうことを目的に、全国の小学5、6年生を対象に、47都道府県で開催される選考会と、決勝大会を後援しました。

1985年に「第1回全国少年少女リレー競走大会」としてスタートし、毎年約15万人の選手、指導者が参加しています。これまで出場した子どもたちの中から、1996年のアトランタ大会以降、6大会連続で延べ25名のオリンピックの代表選手が誕生しました。

本大会は、小学生アスリートとともに歩み、いまや子どもたちにとって目標となる大会として定着しており、日本陸上競技界の底辺の拡大に大きく寄与していると高く評価されています。

【主催・後援】 主催：公益財団法人 日本陸上競技連盟 後援：スポーツ庁 他

【実施日】 ① 選考会 2018年6月～7月
② 決勝大会 2018年8月17日(金)～18日(土)

【場所】 ① 選考会 47都道府県の陸上競技場
② 決勝大会 横浜・日産スタジアム

【参加者数】 約150,000人(選手、指導者、関係者)

【大会内容】 47都道府県の選考会において、選手に入賞メダルや参加賞を贈呈。
決勝大会では、陸上競技の「走・跳・投」の3要素である100m走、80mハードル走、走幅跳、走高跳、ジャベリックボール投、4×100mリレーなど

が実施され、その模様はNHK 教育テレビ(Eテレ)にて全国放送されました。また、子どもたちの意欲、才能を開花させる新たな取り組みとして、複数の陸上種目に挑戦できる「キッズデカスロンチャレンジ」も実施しました。

【事業費】 106,290,183円

(2)「第21回全国小学生クロスカントリーリレー研修大会」の事業後援

発育途上の子どもたちが、身体に負担をかけない正しい長距離走を理解し、走法、呼吸法やトレーニング方法などを学ぶことを目的に、全国の小学5、6年生を対象とし、47都道府県の代表チームと、開催地大阪から推薦された3チームを加えた計50チームが参加するクロスカントリー大会と、前日に開催された研修会を後援しました。

1999年からスタートしました本大会の出場者から、2012年開催のロンドンオリンピックには佐藤悠基選手が、また2016年開催のリオデジャネイロオリンピックには鈴木亜由子選手が長距離の代表として出場しています。

【主催・後援】 主催：公益財団法人日本陸上競技連盟 後援：スポーツ庁 他

【実施日】 2018年12月8日(土)～9日(日)

【場所】 池田市民文化会館(大阪府池田市)、万博記念公園内特設コース(大阪府吹田市)

【参加者数】 922人(一般タイムトライアル参加者も含む)

【研修内容】 ゲスト：関西学院大学 多田 修平 選手(2017年ロンドン世界選手権代表)

- ・ジュニア期に複数のスポーツを行う重要性について
- ・食事や栄養の基本について

【大会内容】 ・クロスカントリーリレー(1区間1.5km×6区間 男女交互のリレー)
・友好タイムトライアル、一般参加タイムトライアル

【事業費】 18,732,248円

2. 少年少女陸上競技指導者表彰「安藤百福記念章」表彰

子どもたちの健全な心身の育成には優れた指導者の存在が不可欠であるとの考えから、小学生の指導者を顕彰する少年少女陸上競技指導者表彰「安藤百福記念章」を、47都道府県から選出された指導者47名に贈呈し、今後の一層の活躍を期待して表彰しました。

【実施日】 2018年8月18日(土)

【事業費】 第34回全国小学生陸上競技交流大会事業費を含む

3. 「安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト」支援事業

当財団と公益財団法人日本陸上競技連盟は、若手アスリートの海外挑戦、武者修行を支援する「安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト」を、2015年9月にスタートしました。

本プロジェクトでは、世界のトップ選手が集う環境の下、大きな刺激を受けながら互いに切磋琢磨し、海外のメダリストを育てたコーチに教えを乞い、最新鋭の設備の中で、練習に励みます。海外での大きな経験が、トップアスリートとして求められる資質を身につけ、オリンピックでのメダル獲得へつなぐと期待しています。

2017年9月、男子100m走において日本人初の9秒台となる9秒98の日本新記録を樹立した桐生祥秀選手も、2016年春・夏に本プロジェクトに参加しました。

【支援内容】

オリンピックなど国際大会でメダル獲得を志す満 16 歳以上の実業団に属していない個人を対象とし、学校の長期休暇を活用した海外合宿、遠征において、旅費、遠征費、コーチフィー等を助成します。

【2018 年度支援対象者】

● 2018 年 10 月～ 2019 年 3 月

(年齢は活動開始時)

氏 名	年齢	種 目	活 動 期 間	日数	活動拠点
塚本ジャスティン惇平 (城西大附属城西高)	17 男	短距離	10月25日～12月8日	45	アメリカ
剣持 クリア (筑波大学)	21 女	三段跳	2月5日～3月10日	34	エストニア
館澤 亨次 (東海大学)	21 男	長距離	1月30日～3月31日	61	アメリカ
北口 榛花 (日本大学)	20 女	やり投	2月1日～3月10日	38	チェコ
池川 博史 (筑波大学)	20 男	やり投	2月25日～3月25日	29	ニュージーランド
江島 雅紀 (日本大学)	19 男	棒高跳	2月1日～2月28日	28	アメリカ
北川 翔 (順天堂大学大学院)	23 男	短距離	2月26日～3月25日	28	オーストラリア

【事業費】 8,457,168 円

4. スポーツ全般におけるジュニアアスリート育成の後援事業

本事業は、青少年の健全な心身の育成を図るという目的のもと、公益財団法人日本オリンピック委員会に加盟する各競技団体を対象とし、全国的な組織またはそれに準ずる団体の活動を通じて、ジュニアアスリート育成を支援します。

2018 年度も引き続き、公益財団法人日本テニス協会が主催する男子ジュニア育成プログラムを後援しました。国内開催の国際大会や、全国大会をはじめとする主要な大会から成績優秀者を選抜して行うナショナルジュニアキャンプ、トップジュニアキャンプ、海外遠征等を支援し、子どもたちが夢を実現する活動を応援します。数々の一流プレーヤーを育てたボブ・ブレット氏をコーチに招き、子どもたちを熱く指導しました。

【参加者数】 ・ナショナルジュニアキャンプ 選手・指導者 274 名 (年 28 回開催)
・トップジュニアキャンプ 選手・指導者 86 名 (年 3 回開催)
・海外遠征・合宿 選手・指導者 69 名 (年 14 回実施)

【事業費】 32,400,000 円

■公 2. 自然体験活動支援事業

「自然とのふれあいが子どもたちの創造力を豊かにする」という安藤百福の考えのもと、財団設立以来、青少年の健全な心身の育成を目的に、子どもたちの「自活力」を育む自然体験活動の更なる普及と活性化に取り組んできました。

2010 年 5 月、長野県小諸市に設立した「安藤百福記念 自然体験活動指導者養成センター (略称：安藤百福センター)」を拠点に、子どもたちの自然体験活動を推進するための人材育成、指導者の養成

を行い、アウトドア活動の普及を図りました。

1. 「第17回トム・ソーヤースクール企画コンテスト」の実施

「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」では、自然体験活動の企画案を公募し、応募総数 216 件の中から、ユニークで創造性に富んだ企画を立案した 50 団体を選考し、実施支援金として各 10 万円を助成しました。

更に、助成した団体から提出された活動報告書を審査し、学校部門には文部科学大臣賞と優秀賞を、一般部門には安藤百福賞と優秀賞を選考し表彰しました。表彰式において、受賞団体のユニークな活動を発表し、他団体の参考としていただくことで、自然体験活動の活性化を図っています。なお、本年度助成した団体の活動には、延べ約 22,500 人の子どもたちが参加しています。

【後援】文部科学省、横浜市、横浜市教育委員会

【表彰団体】

[学校部門]

◆文部科学大臣賞（副賞：100 万円）

団体名：太子町立中学校 社会科学部（大阪府）

企画名：ドキドキ！ワクワク！ 特別体験

～自然・生物と触れ合い、地域の魅力を発見しよう～

◆優秀賞（副賞：50 万円）

団体名：出雲市立須佐小学校（共働：須佐コミュニティセンター）（島根県）

企画名：魅力いっぱい須佐の郷探訪

[一般部門]

◆安藤百福賞（副賞：100 万円）

団体名：社会福祉法人扶助者聖母会 星美ホーム（東京都）

企画名：星美ホーム百名山 ～海拔 0m からの挑戦～

◆優秀賞（副賞：50 万円）

団体名：寺子屋つばさ 100km 徒歩の旅実行委員会（新潟県）

企画名：第 11 回寺子屋つばさ 100km 徒歩の旅

◆推奨モデル特別賞（学校・一般部門共通）（副賞：30 万円）

プランニングや指導の方法、計画を実施に移す過程などが、多くの学校や団体の参考モデルになると認められた企画に贈呈しました。

団体名：伊那市立長谷中学校（長野県）

企画名：鹿嶺の頂を極める！ ～激辛ジビエカレーで地域おこし～

◆トム・ソーヤー奨励賞（学校・一般部門共通）（副賞：各 20 万円）

企画内容がユニークで他団体への刺激や参考となり、更なる飛躍が期待できる企画に贈呈しました。

① 団体名：大阪市立瓜破西小学校「瓜西ネイチャークラブ」（大阪府）

企画名：「アトリファームで ESD！」

～学校・地域・家庭が協働した循環型の飼育・栽培活動を通して～

② 団体名：石巻のプレーパークと子どもの遊びを考える会（宮城県）

企画名：遊び・学び・育つイベント「OGASU 村」開催

～河川敷で子どもの想像力と発想力を思う存分発揮する～

◆ 努力賞（副賞：各 10 万円）

[学校部門]

- ① 団体名：東北町立甲地小学校（委託:小川原湖自然楽校）（青森県）
企画名：かっちっこタイム
～川の生き物探検隊・甲地あおぞら水族館・小川原湖とともに～
- ② 団体名：京都市立朱雀第四小学校（京都府）
企画名：「つながる いのち」（めざせ生きものはかせ）
～植物の栽培や生き物との関わりの中で、命のつながりについて考える～

[一般部門]

- ① 団体名：自然体験楽校青森自然塾（青森県）
企画名：夏休み 7dez チャレンジ青森横断大冒険
～青森県太平洋から日本海・山、川、溪流、海プログラム～
- ② 団体名：特定非営利活動法人草木谷を守る会（秋田県）
企画名：子ども適産調～リキノスケ未来塾～
- ③ 団体名：特定非営利活動法人暮らし・つながる森里川海（神奈川県）
企画名：川あそび、海あそび、湘南いきもの楽校水ガキ養成講座
- ④ 団体名：特定非営利活動法人里豊夢わかさ（福井県）
企画名：「里山の四季 まるごと体験」

【表彰式】開催日：2019年1月26日(土) 安藤百福発明記念館 横浜 5階ホール

来賓：平川 康弘 氏（文部科学省 総合教育政策局 地域学習推進課
青少年教育室 室長）

荒木田 百合 氏（横浜市 副市長）

講演会：「自然体験 ～遺伝子にスイッチを入れるには～」

岡田 武史 氏（株式会社今治. 夢スポーツ 代表取締役会長）

【事業費】13,830,153円

2. 安藤百福センター事業

安藤百福センターを拠点に、子どもたちの自然体験活動を推進するための人材育成や、自然体験活動を推進するさまざまな事業を通して、日本における自然体験活動の中心的な役割を果たし、アウトドア活動の普及、推進に努めました。

近年、ロングトレイルの全国的な拡がりや、8月11日国民の祝日「山の日」施行など、自然体験活動に対する関心の高まりから、NPO 法人日本ロングトレイル協会や、一般財団法人全国山の日協議会と連携し、全国的なロングトレイルや山歩きの普及、振興や安全対策事業の推進等の支援を行い、子どもたちが安心して山歩きやアウトドア活動を楽しめる環境整備を支援することで、自然体験活動の更なる振興、活性化を図りました。

(1) 自然体験活動振興事業

子どもたちを身近な自然に案内する指導者の養成や、自然体験への興味を喚起する講座、セミナー等を実施しました。

【2018年度 主な事業】

- ① 指導者養成のための研修会、講座、シンポジウム等の開催

公益社団法人日本山岳ガイド協会が主催する自然ガイドのための危急時対応技術講習

会など安全管理に関する研修会、および公益社団法人日本山岳会が主催する登山教室指導者養成講習会を共催しました。

また、NPO 法人自然体験活動推進協議会の加盟団体をはじめ、全国のアウトドア活動 67 団体が安藤百福センターを利用して、各種研修会を実施しました。

② 自然体験活動への興味を喚起し、自然体験活動を活性化する施策の実施

既存の枠にとらわれない自由な発想のツリーハウス 7 棟の運営、管理をするとともに、季節に応じたトレッキング講座等を主催しました。

(2) ロングトレイルの普及と安全対策事業への支援

子どもたちの自然体験の主な活動場所は、山、川、海や身近な森林、キャンプ場が中心であり、どのフィールドでも「歩くこと」が基本となります。当財団は、NPO 法人 日本ロングトレイル協会、一般財団法人山の日協議会と連携し、ロングトレイルの普及・振興のための事業を支援し、「歩く文化」の醸成を図り、子どもたちが安心して自然体験が楽しめるよう安全対策事業を支援しました。

【2018 年度 主な事業】

① ロングトレイルの普及・振興活動

- ・全国のトレイル運営機関、諸団体への情報提供と交流促進
- ・全国のトレイルに関する広報活動およびトレイルを活用した観光促進
- ・スマート山岳道標の整備およびトレイル地図アプリの製作などの実施
- ・トレイルを活用した青少年健全育成や生涯スポーツ促進
- ・日本列島を北から南まで一本道で貫く「JAPAN TRAIL プロジェクト」の支援

② 「第 6 回ロングトレイルシンポジウム」の共催

開催日：2019 年 2 月 23 日(土)

参加者：約 140 名

後援：環境省、観光庁、長野県、小諸市、一般財団法人全国山の日協議会 他

来賓：鳥居 敏男 氏（環境省 大臣官房審議官）

座談会：「登山文化を支えてきた道と山小屋」

小池 岳彦 氏（双六小屋 主人）

山口 孝 氏（涸沢ヒュッテ 主人）

米川 正利 氏（黒百合ヒュッテ 主人）

節田 重節 氏（日本ロングトレイル協会 会長）

コーディネーター 若菜 晃子（エディター）

講演：「テ・アラロア～ニュージーランド ロングトレイルの旅～」

金井 麻美 氏（登山ガイド）

報告：・みちのく潮風トレイル 相澤 久美 氏（みちのくトレイルクラブ 常務理事）

・広島湾岸トレイル 田川 宏規 氏（広島湾岸トレイル協議会 会長）

・ぐんま県境稜線トレイル 齊藤 義之 氏（群馬県 スポーツ振興課

スポーツプロジェクト推進室長）

解説：・「JAPAN TRAIL について」

中村 達 氏（安藤百福センター センター長）

・「山の日とロングトレイル」

磯野 剛太 氏（一般財団法人全国山の日協議会 理事長）

③ その他主催・共催事業

- ・ロングトレイルのつくり方講座（主催／年3回開催）
- ・大人のトレイル歩き旅講座（主催／年6回開催）
- ・「山の日」記念事業「みんなでパール浅間を見に行こう！」（主催）
- ・「山の日」記念事業「みんなでダイヤモンド浅間を見に行こう！」（主催）
- ・ロングトレイルハイカー入門講座（共催／年5回開催）

（3）小諸ツリーハウスプロジェクトの推進

安藤百福センターの森では、自然体験に興味がない人でも「アート」にふれあってもらうことを目的に、小諸ツリーハウスプロジェクトを推進し、著名なデザイナーや建築家がデザインしたツリーハウスを7棟展示しています。

また、「いきもの」をテーマに、さまざまなアートワークショップや、アーティストによる野外音楽ライブ、地元の旬の味覚を味わえる飲食ブースなど、「アート・アウトドア・食」を満喫できるイベントを、春・秋の年2回開催しました。

● 小諸ツリーハウスプロジェクト「森の生きものがたり」

開催日：2018年5月12日(土)

参加者：約1,000名

内容：・森のいきもの・昆虫のコスプレコンテスト
・プロの昆虫写真家による「昆虫撮影会」他

● 小諸ツリーハウスプロジェクト「いきものに感謝祭」

開催日：2018年11月4日(日)

参加者：約1,500名

共催：a b n長野朝日放送「地球を守ろう！プロジェクト」

内容：・アウトドアスキルズ・ブートキャンプ
・ビオトープの整備を兼ねたシイタケの菌打ち体験 他

【事業費】129,373,604円（2. 安藤百福センター事業）

3. 自然体験活動支援ホームページ「自然体験.com」の運営

自然体験活動に関する情報や専門家によるノウハウを満載しているホームページ「自然体験.com」は、学校完全週5日制が施行された2002年にスタートしました。当財団では、「自然体験.com」を通じて、保護者や指導に携わる方々へ自然体験活動に関する情報を提供し、子どもたちの「創造力」や「自活力」を育む自然体験活動の輪を広げる事業を行なっています。

また、「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」の募集や、支援団体の活動状況を伝える速報レポート、活動報告書も掲載しています。

【URL】 <http://www.shizen-taiken.com>

【事業費】7,428,875円

■公3. 食文化振興事業

1. 食創会「第23回安藤百福賞」表彰事業

食創会は、1996年、「食創為世（食を創り世のためにつくす）」という安藤百福の理念に基づき、

食品の基礎科学の研究奨励ならびに独創的・革新的な食品の生産加工技術の開発に対する支援・普及を通じて、世界の食文化の向上・発展に寄与することを目的に創設されました。

当財団が主宰する食創会「安藤百福賞」は、安藤百福がインスタントラーメンを発明し新しい食文化を創造したように、食科学の振興並びに新しい食品の開発に貢献する研究者、開発者ならびにベンチャー起業家を表彰するものです。大賞や優秀賞のほか、発明発見奨励賞は、大学等に所属する若手研究者や中小企業の開発者を表彰対象としています。

2016年度より、小泉純一郎 元内閣総理大臣を食創会会長に迎え、食文化の向上に貢献する事業の更なる活性化を図っています。

【後 援】 農林水産省、文部科学省

【表 彰 者】

● 大賞（副賞：1,000万円）

森 和俊 氏（京都大学大学院 理学研究科 教授）

「小胞体ストレス応答の仕組みと意義の解明」

● 優秀賞（副賞：各 200万円）

・岡 勇輝 氏（カリフォルニア工科大学 助教授）

「水の摂取欲求と充足を支配する神経基盤」

・鈴木 康司 氏（アサヒグループホールディングス株式会社 グループ食の安全研究所長）

飯島 和丸 氏（アサヒビール株式会社 名古屋工場 品質管理部長）

浅野 静 氏（アサヒビール株式会社 酒類技術研究所 主任研究員）

「日本が世界に誇る生ビール、その製造における微生物品質保証技術の開発」

・箕越 靖彦 氏（大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 生理学研究所 教授）

「代謝調節分子 AMPK による摂食量と炭水化物嗜好性制御機構の研究」

● 発明発見奨励賞（副賞：100万円）

伊福 伸介 氏（株式会社マリンナノファイバー 代表取締役社長、

鳥取大学大学院 工学研究科 教授）

「カニ殻由来の新素材『キチンナノファイバー』を製造するベンチャーの起業と

その機能を活用した食品原料としての展開」

【表彰式・記念講演会】

開 催 日：2019年3月12日(火) ホテルニューオータニ（東京）

来 賓：吉川 貴盛 農林水産大臣

柴山 昌彦 文部科学大臣

大賞受賞記念講演：

「小胞体ストレス応答の仕組みと意義の解明」

森 和俊 氏（京都大学大学院 理学研究科 教授）

【研究助成】 2015年度食創会において、第20回を記念して、2015年度受賞者の中から、さらに研究・開発の進展が期待される研究・開発者を対象に、研究助成を行うことが決議されており、当該研究・開発者に研究助成を実施しました。

【事業費】 45,445,324円

■公4. 発明記念館運営事業

「人間にとって一番大事なのは創造力であり、発明・発見こそが歴史を動かす」という安藤百福の

考えに基づき、世界の食文化を変えたインスタントラーメンの誕生から、産業として世界に発展していった歴史を通じて、未来を担う子どもたちに発明・発見の大切さを伝え、「ベンチャーマインド」や「創造的思考＝“クリエイティブシンキング”」を育み、青少年の健全な心身の育成に寄与しています。

1. 安藤百福発明記念館 大阪池田（池田記念館）の運営

2018年度の来館者は91万人を超え、開館以来の累計来館者は906万人を突破しました。インバウンドによる来館者増のほか、総合学習や修学旅行など学校教育の場としての利用があり、2018年度は800校、約39,400人の小中学生や高校生が来館し、体験型食育ミュージアムとして高く評価いただいています。

【施設概要】 所在地：大阪府池田市満寿美町8番25号

敷地面積：4,477㎡

延床面積：3,423㎡

【来館者数】 2018年度来館者数 912,000人（累計来館者数 9,067,000人）

【体験者数】 チキンラーメンファクトリー 55,000人

マイカップヌードルファクトリー 586,000食

【事業費】 203,397,639円

2. 安藤百福発明記念館 横浜（横浜記念館）の運営

横浜記念館は、「創造的思考＝“クリエイティブシンキング”」をコンセプトに、安藤百福の言葉や思考、行動の本質を、現代アートの手法で表現し、世界に通じる新しい食文化や産業を生み出す原動力となった安藤百福の自由な発想や創造的な考え方を体験、体感できるミュージアムです。発明・発見の楽しさ、食の大切さ、夢をもって自分で考える楽しさ、あきらめずに何かに取り組む大切さなどを子どもたちに伝えています。

2018年度は1,654校、約76,000人の学校団体の利用がありました。

【施設概要】 所在地：横浜市中区新港2丁目3番4号

敷地面積：4,000㎡

延床面積：9,883㎡

【来館者数】 2018年度来館者数 1,115,000人（累計来館者数 7,984,000人）

【体験者数】 チキンラーメンファクトリー 94,000人

マイカップヌードルファクトリー 818,000食

カップヌードルパーク 99,000人

ワールド麺ロード 429,000食

【事業費】 513,664,720円

■共通. 青少年の健全育成を目的とする支援事業

1. 「生涯スポーツ・体力づくり全国会議2019」（主催：スポーツ庁他）の支援

「スポーツ・イン・ライフ」をテーマに開催された「生涯スポーツ・体力づくり全国会議2019 一人・スポーツ・未来」に協賛しました。

【開催日】 2019年2月1日（金） JRホテルクレメント徳島（徳島市）

【協賛金】 500,000円

<収益事業等>

■施設賃貸および物販の業務受託

当財団が所有する発明記念館（池田記念館、横浜記念館）の一部を、物販コーナーとして賃貸しました。なお、これまで、池田記念館では物販業務を受託しておりましたが、業務の見直しに伴い、2018年10月より業務受託を一時休止しました。

【賃貸面積】 ① 池田記念館 324 m²（館全体の延床面積に占める割合：約 9%）
② 横浜記念館 115 m²（館全体の延床面積に占める割合：約 1%）
【事業費】 24,073,762 円

以上